

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 5 年 6 月 26 日(2023.6.26)

【公開番号】特開 2022-191148(P2022-191148A)
【公開日】令和 4 年 12 月 27 日(2022.12.27)
【年通号数】公開公報(特許)2022-239
【出願番号】特願 2022-42194(P2022-42194)
【国際特許分類】
A 6 3 F 7/02(2006.01)
【F I】
A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

10

【手続補正書】
【提出日】令和 5 年 6 月 16 日(2023.6.16)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
【請求項 1】

遊技の演出にかかわる動作を行う複数の可動部と、
前記複数の可動部の後方に設けられる表示手段と、
を備え、
前記複数の可動部のうち少なくとも 1 つの可動部は装飾部及び接続部を有し、前記接続
部と動作部とが接続されており、
前記接続部を透して前記表示手段の表示を視認可能であり、
前記装飾部は、前記接続部と比較して前記表示手段を視認困難である
ことを特徴とする遊技機。

30

【手続補正 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 1
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 0 1】

本発明は、例えばパチンコ機あるいはパチスロ機等の遊技機に関する。

【手続補正 3】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 2
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 0 2】

40

従来、パチンコ機あるいはパチスロ機といった遊技機において、当落判定を行い、この
当落判定の結果に応じて遊技者に有利なゲームを実行する遊技機が知られている。

【手続補正 4】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 3
【補正方法】変更
【補正の内容】

50

【 0 0 0 3 】

この種の遊技機では、当落判定の結果が表示される前に、当落判定の結果が遊技者に有利な結果であることを期待させるために可動役物を作動させる可動役物演出を行い、演出効果を高めるようにしたものがある。例えば、特許文献 1 に開示された遊技機では、液晶表示器の前方において可動体を作動させる可動役物装置が開示されている。

【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

10

【 0 0 0 4 】

【 特 許 文 献 1 】 特 開 2 0 1 4 - 0 7 6 2 0 8 号 公 報

【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 0 5 】

しかしながら、例えば特許文献 1 の遊技機では、興趣を高めるには限界があった。

【 手 続 補 正 7 】

20

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 0 7 】

本発明に係る遊技機は、

遊技の演出にかかわる動作を行う複数の可動部（例えば、右頭可動体ユニット 3 3 0 0 、右顔可動体ユニット 3 4 0 0 、右顎可動体ユニット 3 5 0 0 ）と、

前記複数の可動部の後方に設けられる表示手段（例えば、表示領域 3 1 1 2 ）と、
を備え、

30

前記複数の可動部のうち少なくとも 1 つの可動部は装飾部（例えば、右頭可動体 3 3 1 0 ）及び接続部（例えば、右頭可動体支持部 3 3 2 0 ）を有し、前記接続部と動作部（例えば、昇降部 3 3 8 0 ）とが接続されており、

前記接続部を透して前記表示手段の表示を視認可能であり、

前記装飾部は、前記接続部と比較して前記表示手段を視認困難である

ことを特徴とする。

【 手 続 補 正 8 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 8

【 補 正 方 法 】 削 除

【 補 正 の 内 容 】

40